

# 同志社社会福祉学の伝統と発展

—その半世紀を顧みて—

嶋田 啓一郎

## 一 専攻創設五〇年を記念して

同志社大学文学部社会学科の社会福祉学専攻は、創設五十年、また大学院文学研究科社会福祉学専攻が設置されて三十周年の記念すべき年を迎えて、去る六月二十九日、三条河原町のロイヤル・ホテルにおいて、記念の会合を催した。上野直藏総長、松山義則大学長をはじめ、教職員、卒業生ら約二百五十名の御出席を得て、同志社独特の気風の盛りあがる壮重で、しかも和やかな雰囲気を集会をもつことができた。

戦前より戦後にかけて、日本の疾風怒濤時代を、社会問題のただ中をかき分けて進むこの専攻の進路は、決して平穩無事では在り得なかつた。しかしその母なる同志社は、よくこの専攻を庇護し、激

励し、半世紀を一貫して、時流に巻きこまれることのない同志社真髓を固守して、わが国最初の大学レベルの社会福祉学専攻として、独自の学風を築くことを可能ならしめてきたのである。

その発端は、一九三一年、大工原総長による神学科の社会事業学専攻創設にさかのぼる。昭和初期、マルクス主義運動の漸く熾烈となるや、これを弾圧する軍部ファシズム陣営は、「社会」の名称を用いる一切のものを危険思想視し、ただ由緒あるキリスト教主義大学、同志社なるが故に、折から深刻化する昭和恐慌の渦中で激化する社会問題に対処するため、文部省は、ここに大学レベルの社会福祉教育を開始することを許可することになった。わが国社会事業の開拓者、牧野虎次氏（後の同志社総長）、校友浜田光雄氏らの奔走により、大久保利武候爵たちの尽力を得て、その実現をみるに至っ

たのである。その教師として、専攻の中心となられたのが、米國留学より帰国された新進氣鋭の竹中勝男先生であった。

## 二 社会福祉の同志社源流

同志社大学に社会福祉学専攻コースが開設されることは、その立学精神からみて、極めて自然な成り行きであった。

「日本のために死に、日本の蒼生（あおひとくさ）を救うべき重任を負った者は、実に諸君に外ならない。……諸君よ願くば天下のために死ね。これは裏が切に望み、ひとえに希うところである。」新島先生は、巢立ちゆく卒業生を校門に送って、斯く励まされている。

新島先生の夫人八重子女史の兄君、山本覚馬先生は、会津藩の出身、伏見の戦に敗れて、藩摩藩に捕えられ、失明の苦杯を嘗めた人物であるが、ゴールドン博士より漢訳聖書を贈られて心眼をひらき、ひろく世界に知識を求め、盲人の身をもって京都府会最初の議長となり、京都の地に産業、医学、社会福祉の全国に先駆けとなるさまざまな業績を遺されたのであった。新島先生と協力、同志社を創立され、新島先生急逝後、「同志社総長代理」をも勤められている。「同志社」は、実にこの人の命名に由るのであるが、特に同志社人の記憶すべきは、山本先生が本年誕生百年を迎える三重苦のヘレン・ケラーをも、はるかに凌ぐ福祉活動に、驚異的な奉仕の生涯を送られたことである。

同志社の伝統の主流に棹さして、社会福祉界に留岡幸助、山室重平、安部磯雄、牧野虎次、水崎基一、大塚素、あるいは近くは浜田

光雄、中村遙等々の傑出せる人物が生れたのは、決して偶然ではない。同志社の社会福祉学専攻は、当然生れるべくして生れたと言わなければならぬ。ここから良心を手腕に運用する人物を輩出し得ずして、同志社の個性は活きていると言ふことはできない。

## 三 同志社社会福祉学の真髄

戦時中、文化学科厚生学専攻、さらに厚生学科、それを母胎として終戦後には新生日本の民主社会に適合する社会学科へ再編成し、社会福祉学専攻は、社会学、新聞学、産業関係学の諸専攻と提携し、同志社大学の異色ある学風を担うべく、熱意の努力を重ねている。社会福祉学の分野におけるわが国最初の大学院社会福祉学専攻コースが設置されたのは、一九五〇年のことであった。

竹中教授を中心に、嘗って竹内愛三、大林宗嗣教授のごとき、また同志社の国際的特色を発揮するジーン・グラント、メアリー・ウッド、ドロシー・デッソーのごとき優れた教授陣を備えることができたのも、同志社独自の確固たる学問的気風の然らしめるところであった。惜しむらくは、一専攻の局限されたスケールでは、明治学院や日本社会事業大学に伍して、多岐多方面に亘る現代社会福祉の広汎な活動に、的確に対応することができない。校地問題の解決と相俟って、少くとも「社会福祉学科」を実現することが、当面の課題であると、私たちは真剣に考えているのである。

私たちが、同志社社会福祉学の特質として、日常座臥、つねに念願してきたのは――

- 1 キリスト教的人格主義の伝統に即応して、全人的人間の統一

的人格の確立を、社会福祉活動の究極目標として、固執してきたと。

2 「人間」考究の学としての社会福祉学を、経済学、心理学、社会学、文化人類学等の諸科学と、人格価値とを統一する力動的統合理論の上に建設すること。

3 国際的視野と日本の現実とを統一する「ますます世界的に、飽くまで日本的に」の雄大な現実主義の学風を固守すること。

4 理想は高く、行いは低きより、社会福祉の「現場と地続きの大学」を標榜し、同志社ヒューマニズムを、つねに社会的現実の変革のための実践行動の原理とすべきこと。

半世紀の過去を顧み、未来を展望する貴重な機会に巡り合い、この記念の集いは、私たちの専攻をめぐる諸兄弟の深い友愛を感謝し同志社と日本社会への熱意と責任感とを一段と強く心に銘ずる又とない感激の時となった。私はいまだ年退職、昭和四年同志社の門をくぐって以来の憶い出を胸にしながら、同志社社会福祉学への熱情は、さらに高く、ひろく、深くなるばかりである。これは、私にとって単なる終りではなく、新しい始まりを告げる一つの「コメンサメント・セレモニー」を意味しているのである。

(同志社大学名誉教授)

嶋田啓一郎著

『社会福祉体系論—力動的統合理論への途—』

(ミネルヴァ書房、A5上製三六八頁、四二〇〇円)

嶋田啓一郎編

『社会福祉の思想と理論—その国際性と日本の展開—』

(ミネルヴァ書房、A5上製三一〇頁、三七〇〇円)

同志社関係出版物ご案内

新島 襄 (岡本清一著)	五〇〇円
新島 襄 (魚木忠一著)	三〇〇円
新島 襄の生涯 (北垣宗治訳)	八五〇円
新島先生書簡集 (統) (森中章光編)	三、〇〇〇円
Life and Letters of Joseph Hardy Neesima	上製本 一、五〇〇円
	並製本 五〇〇円
同志社百年史 通史編 I、II	六、〇〇〇円
同志社百年史 資料編 I、II	一、二〇〇円
同志社九十年小史	三、〇〇〇円
同志社歳時記 (生島吉造 全共編)	六〇〇円
同志社歳時記 (松井 全共編)	七〇〇円
同志社歳時記 (松井 全共編)	五〇〇円
同志社歌集	二八〇円
リベルタス選書	二八〇円
人生友情学問 (上野直蔵著)	二八〇円
憲法と平和主義 (田畑 忍著)	三五〇円
日本経済学の源流 (住谷悦治著)	三五〇円
—ラーネッド博士の人と思想—	
近代日本文化とキリスト教 (辻橋三郎共著)	三五〇円
写真集『同志社一〇〇年』	並製本 八、〇〇〇円
豪華上製本	八、〇〇〇円
写真集『同志社—その一〇〇年のあゆみ—』	並製本 七〇〇円
上製本	七〇〇円

—送料は別途申しあげます—

同志社収益事業課 (075) 二五一—三〇三七〜三〇三八